

第2回茨城県生涯学習・社会教育交流大会

大会テーマ

『はじめての一步 ～地域の活性化をめざして～』



第2回目となる茨城県生涯学習・社会教育交流大会が平成31年2月9日（土）、茨城県県西生涯学習センターを会場に開催されました。当日は、予想外の降雪の中、多数の参加者が集い、熱く、楽しく交流を深めることができました。

分科会【実践発表】

【第1会場：第1実践】

境町子どもたちを繋ぐ高校生会「CLOVER」 ～ リーダー的存在を目指して ～

境町教育委員会生涯学習課

平成16年に結成し、今年度15年目を迎えた高校生会「CLOVER」。境町に在住または在学している高校生が所属するボランティア団体、現在33名が登録し活動している。

事例発表では、町内の小学5・6年生対象の「さかい元気っ子クラブ」の支援や町内の行事への参加、外国人小中学生の日本語支援など、様々なボランティア活動に参加している様子が紹介された。中でも「さかい元気っ子クラブ」では、自然体験（登山・キャンプ・スキー・スノーボード等）や社会体験（施設見学・工場見学等）の体験活動などの事業に参加し、小学生グループに寄り添いながら活動することで、リーダーとして自覚や責任感を育成することにつながっていること。また、成人式では、受付、会場の準備や後片付けなどを行うなど、今後自らが参加するであろう行事にも参加し、当事者になったときに、企画・運営等の中心となれるよう、将来を見据えて町の行事にも積極的に参加しているとのことであった。さらに、平成30年5月には、これまでの活動が認められ、日本善行会から明治神宮で表彰を受けたとの報告があった。このような活動に参加することを通して、郷土愛を養うとともに、将来、町を支える人材の育成につながっているとのことであった。



※第1会場第2実践は降雪のため中止

【第2会場：第1実践】

コミュニケーションから広がる笑顔の輪 ～ コミュニティーカフェ「ひろば」 ～

常総市特定非営利活動法人「みんなの広場」

「コミュニケーションから広がる笑顔の輪」をテーマに、常総市特定非営利活動法人「みんなの広場」代表の鈴木悦子さんによる実践発表が行われた。コミュニティーカフェ「ひろば」は、「子どもから高齢者までみんなで集まり、顔を合わせることで自然に笑顔になれる場所をつくりたい」という思いからつくられた。

コミュニティーカフェ「ひろば」は、高齢者、障がい者の方を含むすべての人が孤立することなく笑顔で生活し続けられる場所として、コーヒーや食事の提供だけでなく相談室も兼ね備えている。代表の鈴木さんは、生活支援コーディネーターの資格を有し、介護や障がいのことで悩まれている方の相談にのっている。また、商工会、行政、民生委員、医療・介護施設、地元農家と連携・協力し、まちの中に人の流れをつくる取組をしている。

事例発表後には、熱心なグループ協議が行われた。全体協議では、「困った時にSOSを出せる場として機能し、SOSを出せる場所づくりがすばらしい」等の意見があった。



【第2会場：第2実践】

人と人を繋げるプレイスメイキングとは

古河市お休み処「坂長」

館長の金子典子さんは、「様々なイベントを開催しても次の日にはまた静かな街の風景に戻る。イベントは非日常であり、一過性に過ぎない。魅力的な日常の場所にするには、次の日にも繋がる持続的なしなかけ（プレイスメイキング）が必要だと感じ、居心地が良く、人と人を繋げる場としての居場所（サードプレイス）づくりを目指している。」と前段で説明した。

お休み処「坂長」の理念は、「発見・学び・発信の場」であり、日常的に「人と人が繋がる出会いの場」「〇〇をやってみたい、を実現できる場」を提供している。「貸館」では、「タスクラス」と呼ばれる学び、講座、発表の場、イベントの開催や、「タスグラ」と呼ばれる個人で利用できるシェアスペースの開設をしている。「店蔵」では地元客、観光客双方が求めるものを取り揃え、「飲食」では癒しの空間の場・地元の産物を味わえる場としている。

事例発表後の全体協議では、参考になる点については、「イベントの企画力や人を巻き込む力がすばらしく、参考になった」「アイデアが固執してしまっている打開策としての視点や変化の必要性を教えられた」等の意見があった。



分科会【実践発表】

【第3会場：第1実践】

自主性・主体性を育む 次世代を担う育成推進

筑西ペアー合唱団

筑西ペアー合唱団は、音楽があふれる環境を子供たちに作ってあげたいという思いから、地域の活動から独立し2010年に設立された。現在は3～20才の団員が所属しており、団員がどのように心をつにしていけるか自ら考えられるよう、指導者は見守るようにしている。コンサートを開催する他、各種イベントへ出演したり、施設訪問を行ったりと、様々な活動をしており、各イベント終了後には観客と触れ合う時間を設けている。それらの活動や練習の中で、子供たちは身の回りのことを自分で行い、時には仲間と助け合いながら、様々な課題を乗り越えている。また、毎年、北海道演奏旅行を行っており、2018年8月にも6日間の日程で保育園や老人保健施設を訪問した。

これらの活動で感じたことについて団員から発表があり、自主性や社会性、生きる力が育まれ、将来の夢にもつながっている様子が伝えられた。また、団員の保護者からも、表現することの大切さを子供にも感じてほしいという思いが発表された。

活動を通して感じる課題として、子供たちが音楽に触れる機会が少ない点や、低学年で楽しさを感じられないと音楽から離れてしまうという点が挙げられた。それらを少しでも解消するために、ダンスなども取り入れ、音楽を楽しめるようにしているが、少しでも多くの子供たちが参加できるよう、知名度を上げていきたいとあった。



【第3会場：第2実践】

英語で結城市を元気に！

ユーキングリッシュ

2017年11月に『英語で結城市を元気に！』を合言葉に、子供からシニア世代まで多くの方に、英語を使う楽しさを知っていただけるよう、英語に触れる機会や英語を使う場を提供し、英語をより身近に感じてもらえ、参加者みんなが楽しめるサークルを目指し、本団体は発足した。

キッズには、英語を話し使うことの楽しさを知ってほしいと思い、「English 寺子屋(後に『U Key English ☆ Kids』と改称)」を、大人の方には、もっと身近に英語を話す場所や勉強したことを使える場所、気楽に英語を使える場所があってもよいと思い、「English Café」という名称のサークルを作った。サークルでは、工夫を凝らした活動が展開されており、活動に参加したキッズや大人の方からは、「とても楽しかった！」という声が多く聞かれ、英語への関心が確実に高まっている。

実践発表後のグループ協議では、発表団体の課題解決に向けて、どのグループも熱心な話し合いが行われた。課題として挙げた「スタッフの確保」「参加者の募集」「運営費の捻出」等について、参加者から多くの助言があった。行政も含め、みんなで本団体の素晴らしい取組を応援していこうという雰囲気の中で分科会は終了した。



アトラクション

県西生涯学習センターの講座からスタートし、結成15年の「県西ハーモニカ楽奏」の皆さんに演奏していただきました。ハーモニカの音色が会場全体に響き渡り、心地よい時間を過ごすことができました。また、筑西ペアー合唱団とコラボした「ふるさと」は、参加者全員の大合唱となり、大いに盛り上がりました。



講演

地域課題と資源をもとに事業をプロデュース

～ 災害復興・多文化共生・高齢者の居場所と生きがいがづくり ～

講師 茨城 NPO センターコモンズ理事長 横田能洋 先生

主な講演の内容

- 3つの目標
 - ① 災害復興
他地域との絆を広げ、地域間交流を
 - ② 多文化共生
外国籍住民と共生する地域として全国に発信
 - ③ 高齢者の居場所と生きがいがづくり
空き家をみんなの家に、外出と買い物が楽
- 自主防災
 - ・二度と逃げ遅れないために
 - ・常総オリジナル防災セット
 - ・防災研修のメニュー
 - ・企業・大学・NPOの防災研修受け入れ
 - ・他の被災地との交流・相互支援
- 多文化共生のまちづくりと人づくり
 - ・学童保育：ボランティアの手で改修した保育園
 - ・多文化保育
 - ・ピアサポーター養成
 - ・外国ルーツの住民の定住化支援
- 高齢者の居場所と生きがいがづくり
 - ・空き家を活用した居場所づくり
 - ・移動支援をカーシェアリング
 - ・様々な食を通じた交流



交流会・クロージング

常総市「みんなの広場」の鈴木さん、古河市の「お休み処・坂長」の金子さんから、この交流大会で発表した感想や現在の思いをお話しいただくとともに、各分科会での話し合いの様子や話題等について振り返ることにより、情報の共有化が図られ、生涯学習・社会教育関係者間の交流が深まりました。

